

# 令和7年度ブルーカーボンデータ計測 マニュアル研究会の開催方針

令和7年度 地球温暖化防止に貢献するブルーカーボンの役割に関する検討会

8月12日(金)

国土交通省 港湾局 海洋・環境課 港湾環境政策室

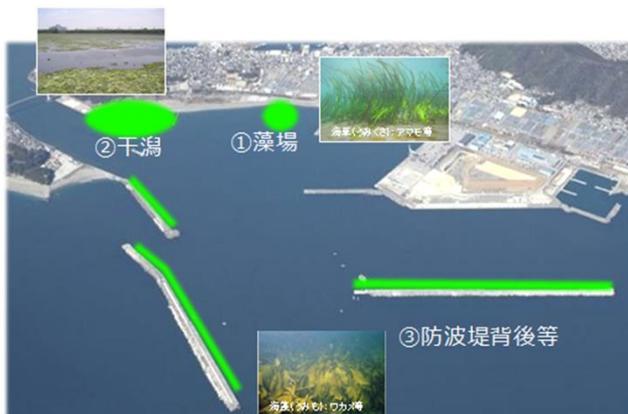
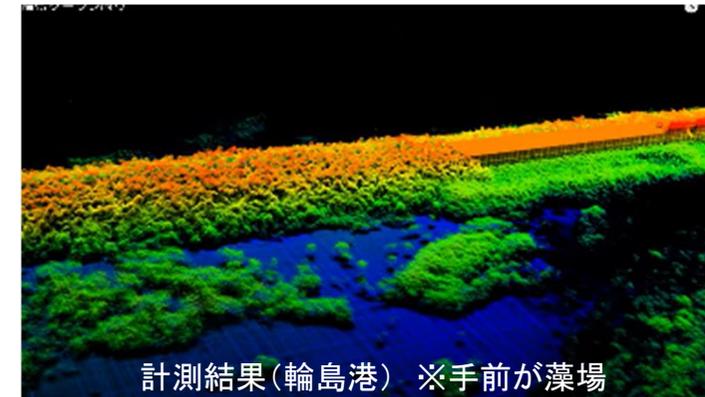
# ブルーカーボン高精度データ把握・管理システムの開発状況

- 国土交通省では、ブルーインフラの整備効果確認等を目的に、海草藻場・海藻藻場(以下、藻場)によるCO<sub>2</sub>吸収量を把握するため、準天頂衛星を含むRTK-GNSS測位技術を活用したグリーンレーザー搭載ドローン及び藻場の繁茂面積を高精度かつ効率的に把握・管理するシステム(通称BDAS(Blue carbon Data Archive System) (仮称))を開発。
- 現在、藻場の繁茂面積は各省庁が公表している環境データ(水深や水温等)より推定し、吸収係数(海草・海藻の種に固有の係数)と掛け合わせることでCO<sub>2</sub>の吸収量を算定。

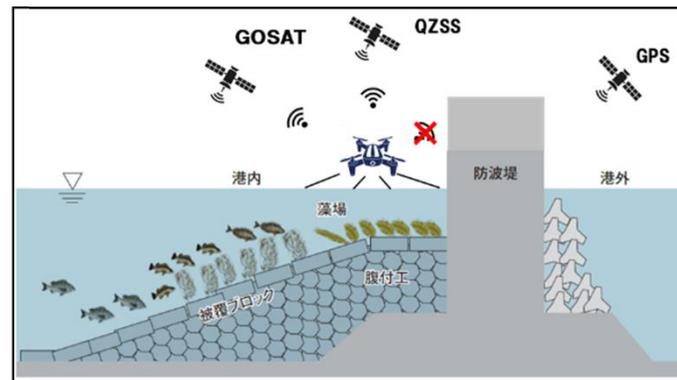
## ブルーカーボンの高精度データ把握・管理システムの開発状況

(開発スケジュール)

- ・令和5年度  
水中透過性の高いグリーンレーザーを搭載し、準天頂衛星等の測位技術を活用したドローンの試作機を開発し、現地での実証等を実施
- ・令和6年度  
取得データをデータベースに集約するシステムの構築等を実施
- ・令和7年度  
ノイズ処理の自動化や各種データベースとの連携等のシステム改善等を実施中



港湾区域内の藻場等の生息箇所イメージ



準天頂衛星を活用したブルーカーボン観測イメージ

衛星(QZSS)

(準天頂衛星)

衛星(GOSAT)

(温室効果ガス観測技術衛星)

- ①BDASは現在、システムの改修を実施しており、令和8年4月から活用できる予定。よって、ブルーカーボンデータ計測マニュアル(グリーンレーザ)についても同時期に公表できるように内容の精査等を進める。
- ②BDASについては今後、他計測手法により取得されたデータの活用を目指すことから、研究会メンバーの拡充、勉強会を開催することとする。